

II 調査結果

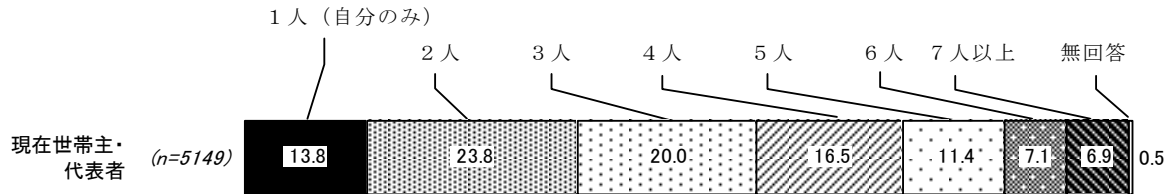
1 世帯・家族の状況

(1) 震災発生当時の世帯構成(現在世帯主・代表者)

問 20 震災発生当時の世帯構成についてうかがいます。
 (1) 震災発生当時、あなたを含めて何人でお住まいでしたか。(〇は1つ)

現在世帯主もしくは世帯の代表者(5,149人)の震災発生当時の世帯人数を見ると、「2人」が23.8%で最も多く、次いで「3人」(20.0%)、「4人」(16.5%)の順となっている。(図表 1-1-1)

図表 1-1-1 震災発生当時の世帯人数



(2) 震災発生当時、一緒にお住まいであった方を、あなた自身を含めてすべて教えてください。震災当時の学齢・年齢でご回答ください。(〇はいくつでも)

震災発生当時の世帯主を含めた構成員の年齢属性を見ると、当時「65歳以上の方」がいた世帯は54.7%で、過半数を占める。一方、当時「未就学児(小学校入学前)」は12.5%、当時「小学生」は14.2%である。(図表 1-1-2)

世帯の避難状況別(p.20 参照)に見ると、複数か所に分かれて避難している分散世帯の4割は、震災発生当時、「高校生以下の子ども」(41.3%)と同居していたと回答している。一方、震災発生当時「高齢者のみ世帯」は、まとまって避難している世帯(22.3%)の2割強で、分散世帯(6.0%)より多くなっている。(図表 1-1-2)

図表 1-1-2 震災発生当時の世帯類型(世帯の避難状況別)

		未就学児の子どもあり	小学生の子どもあり	小中学生の子どもあり	高校生の子どもあり	高校生以下の子どもあり	15~64歳の方(中高校生を除く)	65歳以上の方あり	高齢者のみ世帯	その他	無回答
現在世帯主・代表者	(n=5149)	12.5	14.2	18.6	8.5	30.8	80.6	54.7	17.0	27.9	1.3
世帯でまとまって避難している	(n=2178)	11.0	13.6	16.6	5.5	26.3	76.4	52.5	22.3	28.5	0.5
複数か所に分かれて避難	(n=2402)	16.5	17.8	24.4	12.9	41.3	91.8	58.0	6.0	24.4	0.4

世帯主もしくは代表者の年代別に見ると、30代の43.8%は、当時「未就学児」と同居していたと回答し、世帯主もしくは代表者が30～40代の世帯では、6割以上が震災発生当時「高校生以下の子どもあり」の世帯であったと回答している。40代以上になると、当時「65歳以上の方」との同居世帯が4割を上回る。(図表 1-1-3)

図表 1-1-3 震災発生当時の世帯類型(世帯主・代表者の年代別)

		未就学児の子どもあり	小学生の子どもあり	小中学生の子どもあり	高校生の子どもあり	高校生以下の子どもあり	15～64歳の方(中高生を除く)	65歳以上の方あり	高齢者のみ世帯	その他	無回答
現在世帯主・代表者	(n=5149)	12.5	14.2	18.6	8.5	30.8	80.6	54.7	17.0	27.9	1.3
10-20代	(n=143)	25.9	4.9	6.3	11.9	40.6	97.2	25.2	-	44.1	2.8
30代	(n=500)	43.8	31.0	32.6	1.0	60.6	100.0	23.4	-	30.6	-
40代	(n=688)	16.3	36.3	50.4	20.8	63.7	100.0	40.4	-	19.8	-
50代	(n=1150)	6.3	9.9	16.2	14.7	29.5	100.0	43.3	-	41.8	-
60代	(n=1341)	10.6	7.7	8.7	1.3	16.9	86.4	43.8	8.8	44.0	4.2
70代以上	(n=1263)	4.3	7.5	10.1	6.3	16.1	37.5	100.0	58.6	-	-

(2) 震災発生当時の住宅の所有形態と建て方(現在世帯主・代表者)

問 21 震災発生当時にお住まいだった住宅は、どのような所有形態、建て方でしたか。

(1) 所有形態(○は1つ)

(2) 住宅の建て方(○は1つ)

現在世帯主もしくは世帯の代表者(5,149 人)の、震災発生当時の住宅の所有形態としては、「自己所有(持ち家)」が 82.6%と多数を占めており、次いで「民間賃貸」(10.2%)が 1 割である。(図表 1-2-1①)

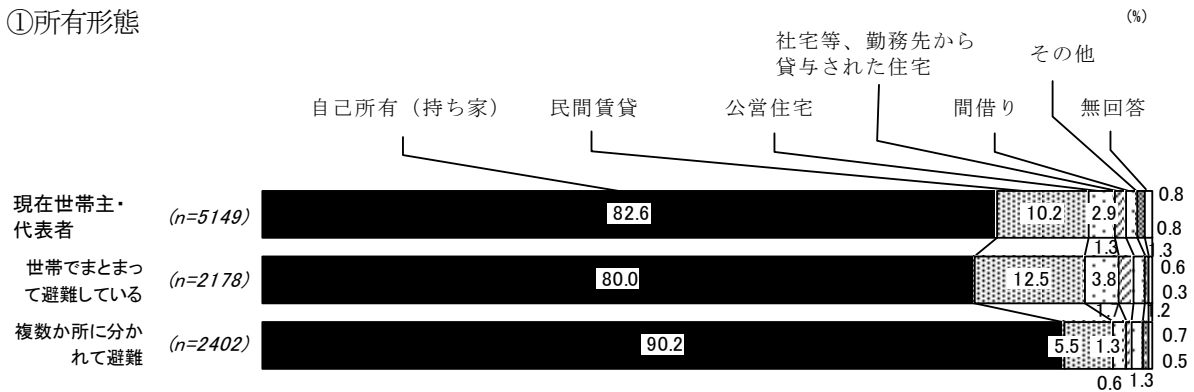
震災発生当時の住宅の建て方を見ると、「一戸建て」が 88.4%と多数を占める。(図表 1-2-1②)

世帯の避難状況別(p.20 参照)に住宅の所有形態を見ると、複数か所に分かれて避難している分散世帯の 9 割は、震災発生当時「自己所有(持ち家)」(90.2%)に居住しており、まとまって避難している世帯(80.0%)より持ち家比率が高くなっている。(図表 1-2-1①)

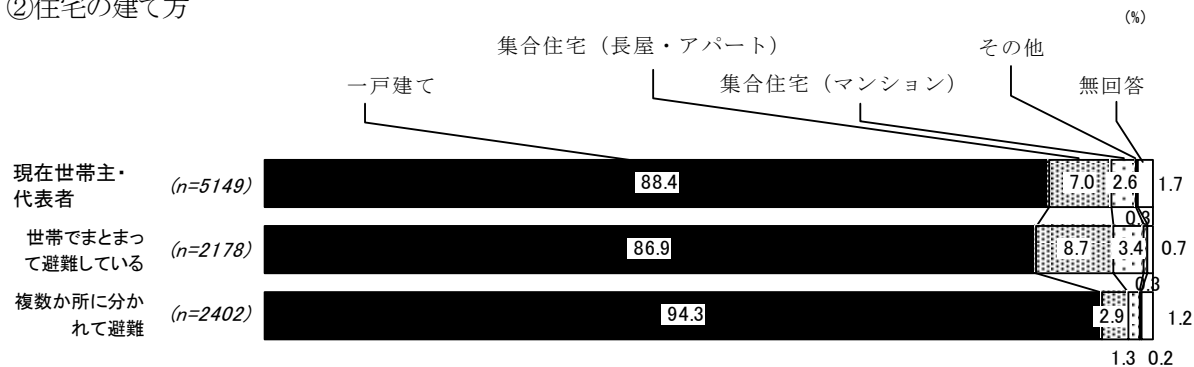
世帯の避難状況別(p.20 参照)に見ると、持ち家比率の高い分散世帯の方が、震災発生当時「一戸建て」居住者(94.3%)が多くなっている。(図表 1-2-1②)

図表 1-2-1 震災発生当時の住宅の所有形態(世帯の避難状況別)

①所有形態



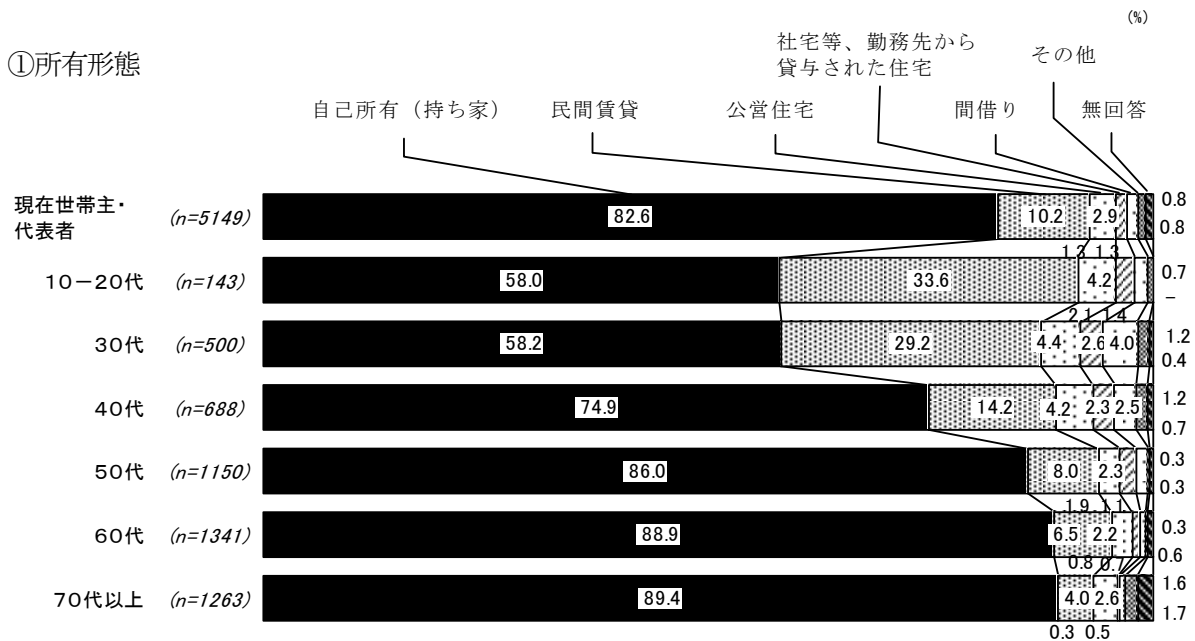
②住宅の建て方



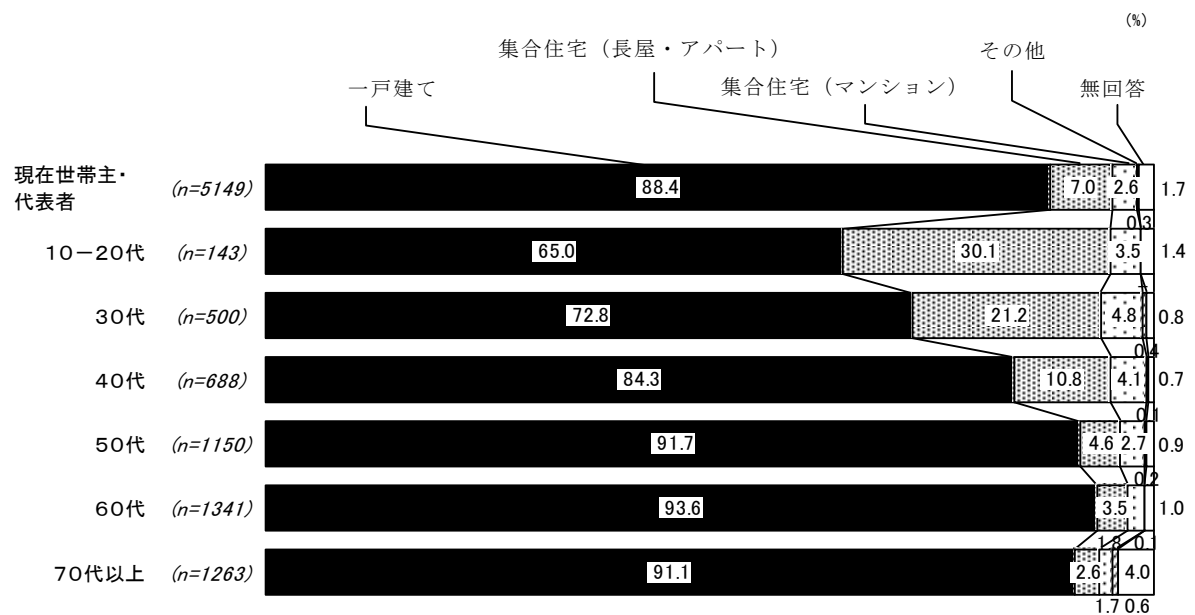
住宅の所有形態を世帯主もしくは世帯の代表者の年代別に見ると、年代が高くなるほど「自己所有(持ち家)」が多く、50代以上では9割近くを占める。これに対して、「民間賃貸」居住は若年齢層の世帯主・代表者に多く、30代以下では3割前後となっている。(図表 1-2-2①)

所有形態も同様の傾向があり、「自己所有(持ち家)」居住が多数を占める50代以上の世帯主・代表者では、9割以上が、震災発生当時は「一戸建て」に居住していたと回答している。一方、若年齢層の世帯主・代表者は“集合住宅”居住が多く、10～20代では、本間においては2階建て以下の集合住宅を意味する「集合住宅(長屋、アパート)」居住が30.1%となっている。(図表 1-2-2②)

図表 1-2-2 震災発生当時の住宅の所有形態(世帯主・代表者の年代別)



②住宅の建て方



(3) 震災発生当時、自己所有していた住宅の対処(現在世帯主・代表者)

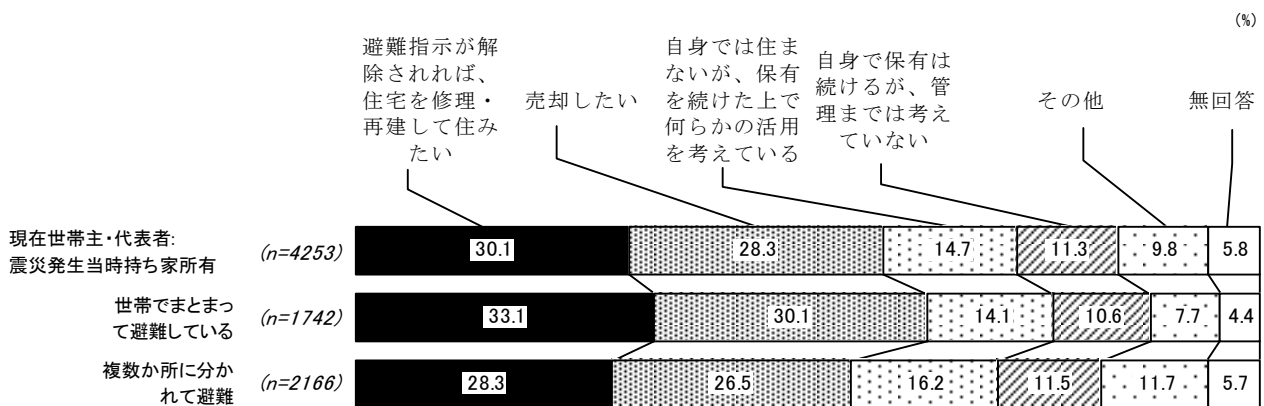
【問 21(1)で「1 自己所有(持ち家)」と回答した方のみにかがいます。】

(3) 震災発生当時にお住まいだった住宅(土地も含む)をどのように対処していきたいとお考えですか。津波で被災された方は土地についてお答えください。(〇は1つ)

震災発生当時、「自己所有(持ち家)」に居住していた世帯主もしくは世帯の代表者(4,253人)に、土地を含んだその住宅の今後の対処について聞いたところ、「避難指示が解除されれば、住宅を修理・再建して住みたい」(30.1%)と「売却したい」(28.3%)がともにほぼ3割で、意向が分かれている。(図表 1-3-1)

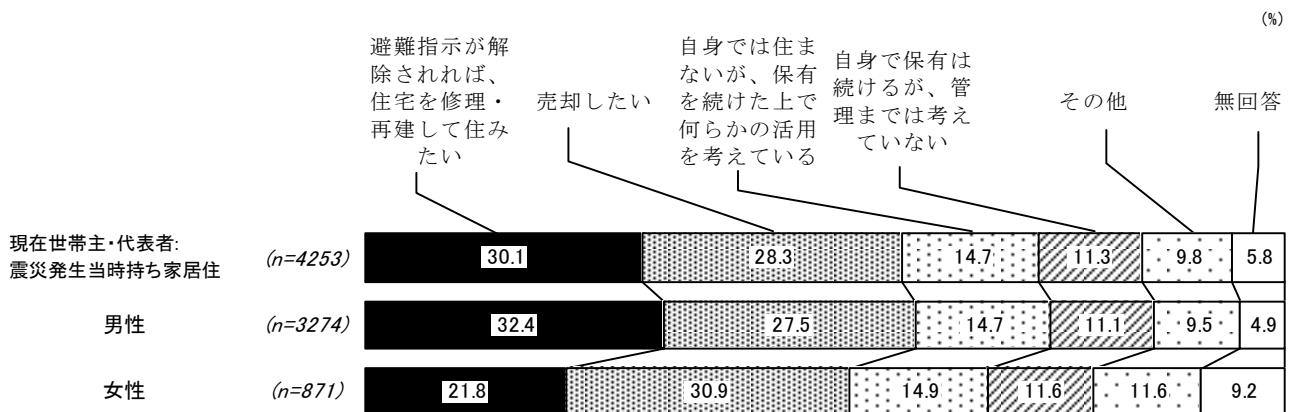
世帯の避難状況別(p.20 参照)に見ても、大きな差はみられない。(図表 1-3-1)

図表 1-3-1 震災発生当時、自己所有していた住宅の対処(世帯の避難状況別)



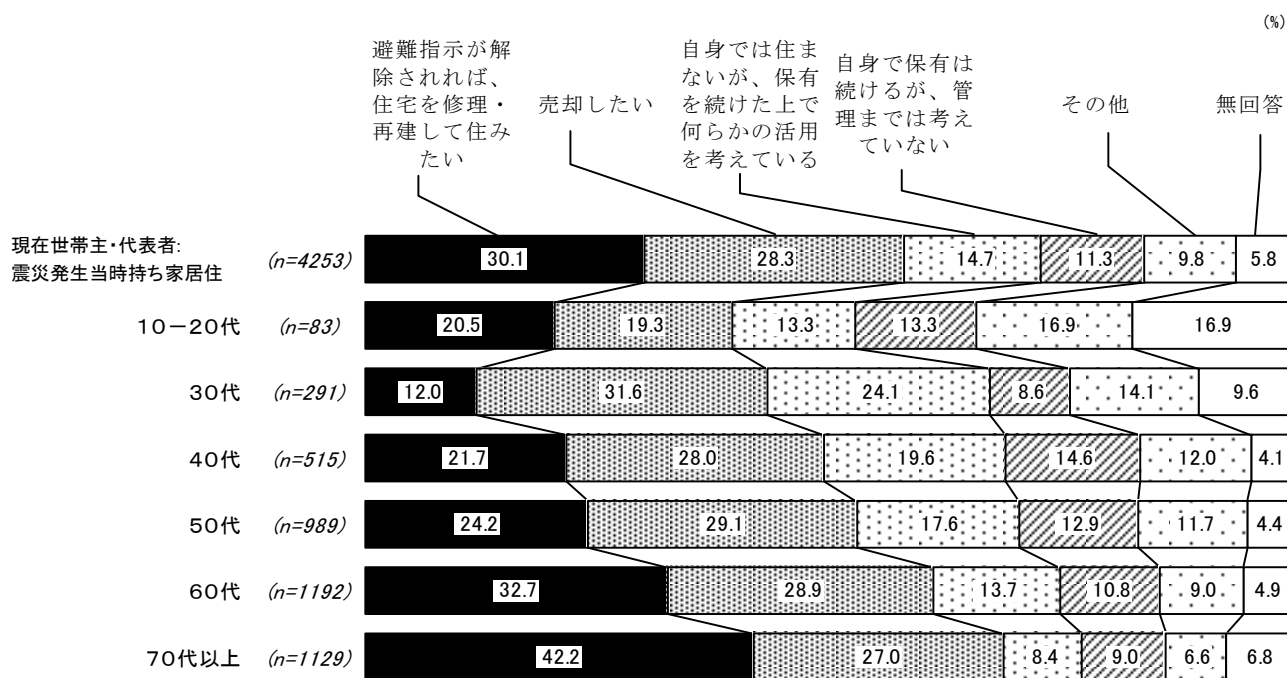
世帯主もしくは世帯の代表者の男女別に見ると、「避難指示が解除されれば、住宅を修理・再建して住みたい」(男性 32.4%、女性 21.8%)という回答は、女性より男性の世帯主・代表者に多くなっている。(図表 1-3-2)

図表 1-3-2 震災発生当時、自己所有していた住宅の対処(世帯主・代表者の男女別)



世帯主もしくは世帯の代表者の年代別に見ると、高年齢層ほど「避難指示が解除されれば、住宅を修理・再建して住みたい」という回答が多くなる傾向があり、70代以上(42.2%)の世帯主・代表者では4割を上回っている。一方、「自身では住まないが、保有を続けた上で何らかの活用を考えている」という世帯主・代表者は、若年齢層ほど多くなる傾向がある。(図表 1-3-3)

図表 1-3-3 震災発生当時、自己所有していた住宅の対処(世帯主・代表者の年代別)



(4) 現在の世帯構成(現在世帯主・代表者)

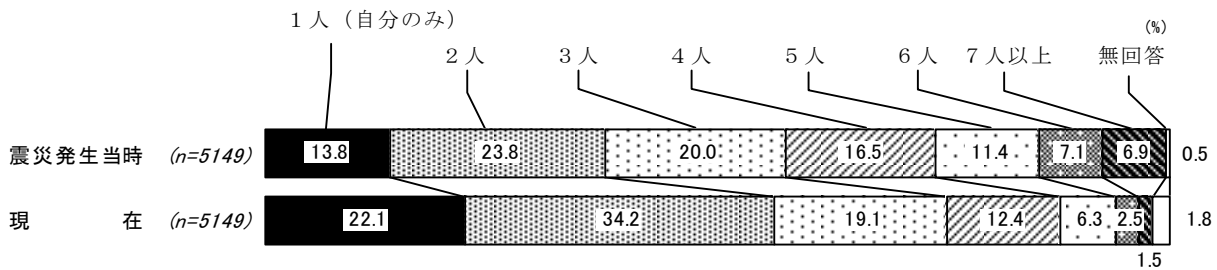
問 22 現在の世帯構成についてうかがいます。

(1) 現在、お住まいの住宅には、あなたを含めて何人でお住まいですか。(〇は1つ)

現在世帯主もしくは世帯の代表者(5,149人)に現在の同居世帯人数を聞いたところ、「2人」が34.2%で最も多く、次いで「1人(自分のみ)」(22.1%)と「3人」(19.1%)が2割前後となっている。

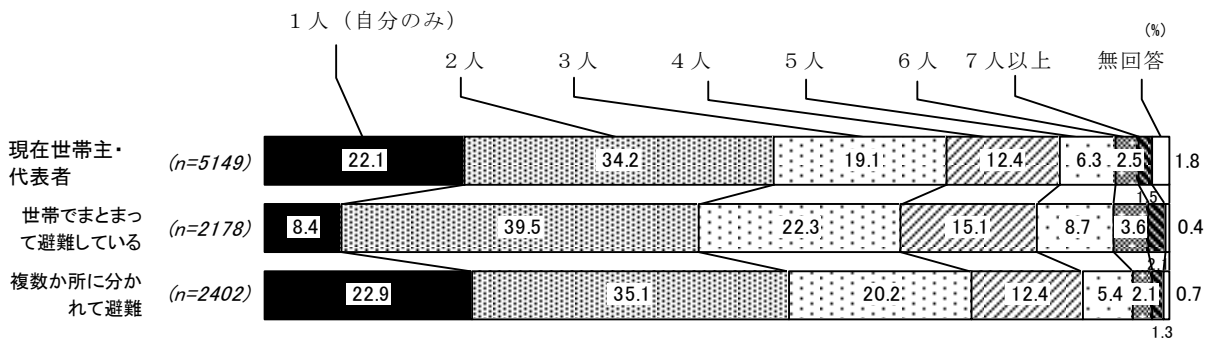
ちなみに、先にみた震災発生当時の「2人」は23.8%、「1人(自分のみ)」は13.8%であり、震災発生から1年10ヶ月がたった調査時点で、それぞれ10.4ポイントと8.3ポイント増加している。(図表1-4-1)

図表 1-4-1 現在の同居人数



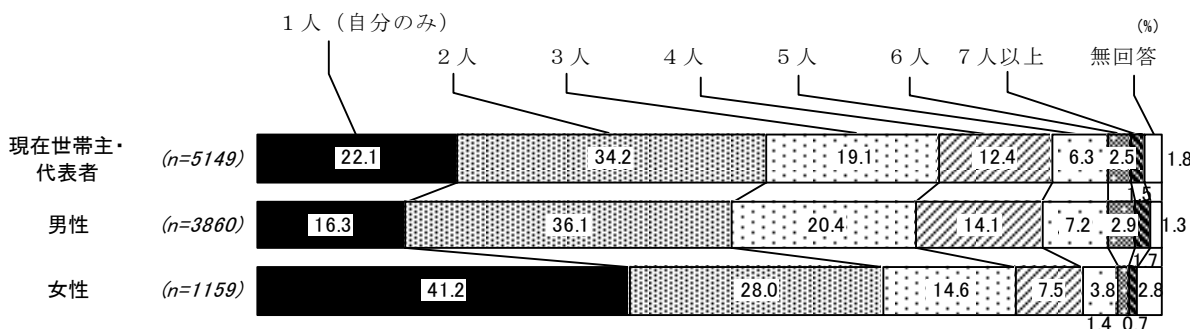
世帯の避難状況別(p.20 参照)を見ると、分散世帯で「1人(自分のみ)」が22.9%となっており、震災をきっかけとして単身世帯になったとみられる。(図表1-4-2)

図表 1-4-2 現在の同居人数(世帯の避難状況別)



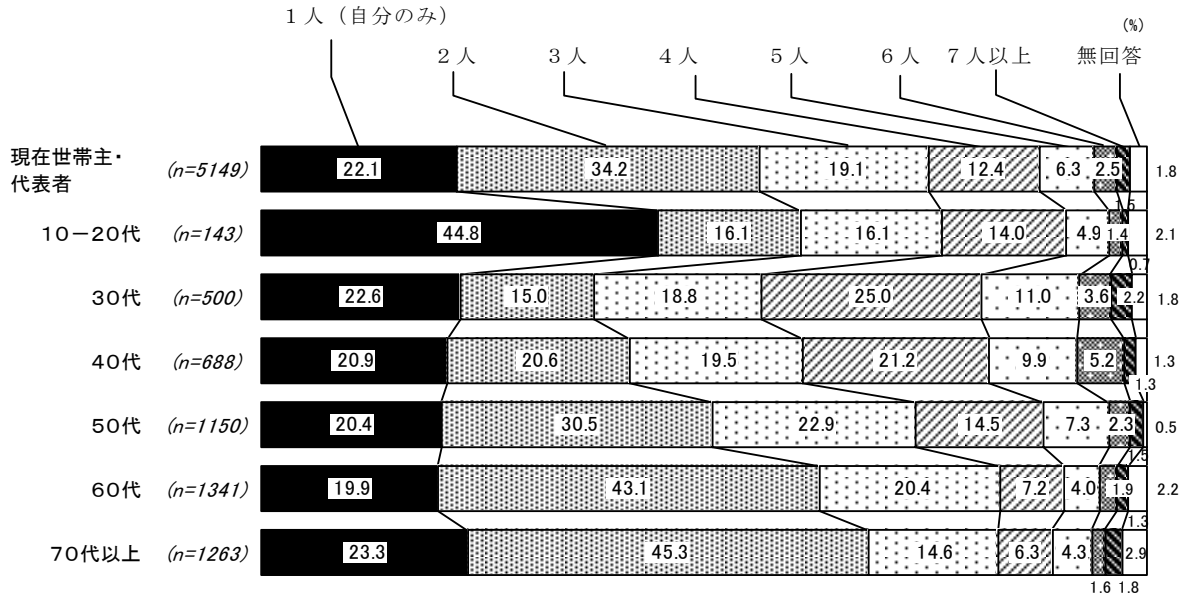
世帯主もしくは世帯の代表者の男女別に見ると、女性の「1人(自分のみ)」は41.2%で、男性(16.3%)より割合が高くなっている。(図表1-4-3)

図表 1-4-3 現在の同居人数(世帯主・代表者の男女別)



世帯主もしくは世帯の代表者の年代別に見ると、10～20代の44.8%は、「1人(自分のみ)」と回答している。(図表1-4-4)

図表 1-4-4 現在の同居人数(世帯主・代表者の年代別)



問 22(2) 現在、一緒にお住まいの方を、あなた自身を含めてすべて教えてください。現在の学齢・年齢でご回答ください。
(○はいくつでも)

現在の家族の状況としては、現在、65歳以上の高齢者がいる世帯は49.7%で、震災発生当時より5.0ポイント減少している。また、「未就学児(小学校入学前)」は8.4%、「小学生」は10.1%がおり、高年齢層とともに低年齢層がいる世帯の割合も減少している。(図表1-4-5)

図表 1-4-5 現在の世帯構成(世帯)

		未就学児の子どもあり	小学生の子どもあり	小中学生の子どもあり	高校生の子どもあり	高校生以下の子どもあり	15～64歳の方(中高生を除く)	65歳以上の方あり	高齢者のみ世帯	その他	無回答
現在世帯主・代表者	(n=5149)	12.5	14.2	18.6	8.5	30.8	80.6	54.7	17.0	27.9	1.3
震災発生当時	(n=5149)	12.5	14.2	18.6	8.5	30.8	80.6	54.7	17.0	27.9	1.3
現在	(n=5149)	8.4	10.1	14.0	6.5	22.8	76.6	49.7	22.3	33.6	0.3

世帯の避難状況別(p.20 参照)を見ると、まとまって避難している世帯の57.6%は、「65歳以上の方」と同居していると回答している。また、まとまって避難している世帯で、「高齢者のみ世帯」が21.5%と、分散世帯(16.7%)より多くなっている。(図表 1-4-6)

図表 1-4-6 現在の世帯構成(世帯の避難状況別)

		未就学児の子どもあり	小学生の子どもあり	小中学生の子どもあり	高校生の子どもあり	高校生以下の子どもあり	15～64歳の方(中高生を除く)	65歳以上の方あり	高齢者のみ世帯	その他	無回答
現在世帯主・代表者	(n=5149)	8.4	10.1	14.0	6.5	22.8	76.6	49.7	22.3	33.6	0.3
世帯でまとまって避難している	(n=2178)	10.1	12.9	17.8	7.2	27.2	77.7	57.6	21.5	23.8	0.0
複数か所に分かれて避難	(n=2402)	8.5	9.7	13.7	7.4	23.6	82.0	41.1	16.7	40.6	0.3

年代別に見ると、70代以上の世帯主・代表者の67.4%は、「高齢者のみ世帯」と回答しており、震災発生当時(p.12 参照)より9ポイント増加している。一方、30代の61.2%、40代の54.8%は「高校生以下の子ども」がいる世帯である。(図表 1-4-7)

図表 1-4-7 現在の世帯類型(世帯主・代表者の年代別)

		未就学児の子どもあり	小学生の子どもあり	小中学生の子どもあり	高校生の子どもあり	高校生以下の子どもあり	15～64歳の方(中高生を除く)	65歳以上の方あり	高齢者のみ世帯	その他	無回答
現在世帯主・代表者	(n=5149)	8.4	10.1	14.0	6.5	22.8	76.6	49.7	22.3	33.6	0.3
10-20代	(n=143)	30.1	4.9	5.6	2.1	32.9	99.3	3.5	-	63.6	0.7
30代	(n=500)	40.6	32.8	35.6	2.2	61.2	100.0	7.6	-	36.2	-
40代	(n=688)	11.8	27.2	39.0	22.1	54.8	100.0	21.1	-	33.9	-
50代	(n=1150)	2.3	5.4	11.1	9.7	19.0	100.0	28.0	-	58.5	-
60代	(n=1341)	4.0	3.7	4.6	1.2	8.1	78.3	56.5	21.2	40.0	-
70代以上	(n=1263)	1.8	3.8	5.9	3.3	8.8	30.3	100.0	67.4	-	-

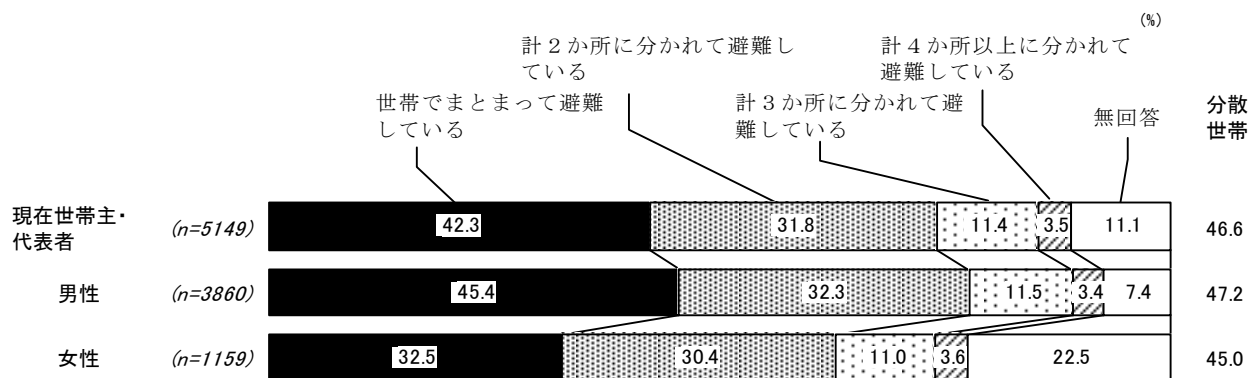
(5)分散避難の状況(現在世帯主・代表者)

問 22(3) 現在、あなたがお住まいの住宅には、震災発生当時一緒にお住まいであった世帯のご家族でまとまって避難していますか。(〇は1つ)

現在世帯主もしくは世帯の代表者(5,149人)の避難状況を聞いたところ、「計2か所に分かれて避難している」(31.8%)、「計3か所に分かれて避難している」(11.4%)などと回答した、いわゆる“分散世帯”は46.6%で、「世帯でまとまって避難している」世帯(42.3%)より4.3ポイント多くなっている。(図表 1-5-1)

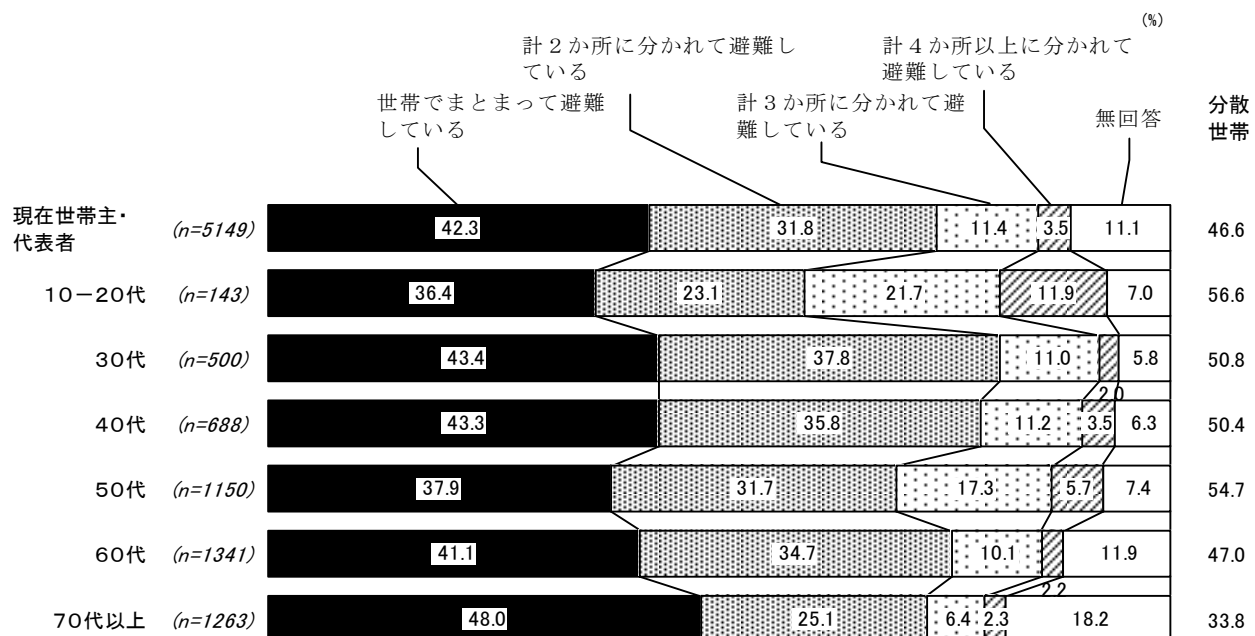
世帯主もしくは世帯の代表者の男女別に見ると、「世帯でまとまって避難している」(男性45.4%、女性32.5%)という世帯主・代表者は、女性より男性に多くなっている。(図表 1-5-1)

図表 1-5-1 世帯の避難状況(世帯主・代表者の男女別)



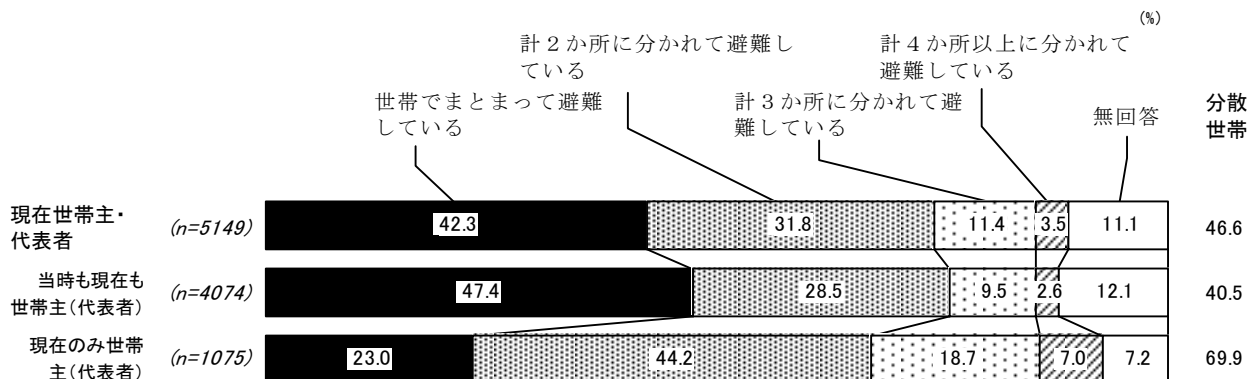
世帯主もしくは世帯の代表者の年代別に見ると、10~20代と50代の世帯主・代表者で、“分散世帯”が他の年代より多くなっている。(図表 1-5-2)

図表 1-5-2 世帯の避難状況(世帯主・代表者の年代別)



震災発生当時の世帯での立場別に見ると、震災発生当時世帯主で今も世帯主の場合は、半数近くが「世帯でままとまって避難している」(47.4%)と回答しているが、当時世帯主ではなく現在世帯主の場合は 7 割が『複数か所に分かれて避難している』(69.9%)と回答しており、震災をきっかけに世帯が分散したことで、世帯主もしくは代表者になったものと推察される。(図表 1-5-3)

図表 1-5-3 世帯の避難状況(震災発生当時の世帯での立場別)



【問 22(3)で「2」「3」「4」と回答した方にかがいます。】

問 22(4) 現在、あなたと別居している方の人数は何人ですか。(○は1つ)

複数箇所に分かれて避難している分散世帯(2,402 世帯)で別居している家族人数は、「1 人」が 32.6%で最も多く、次いで「2 人」が 25.1%となっている。(図表 1-5-4)

世帯主もしくは世帯の代表者の年代別に見ると、単身世帯の多い 10~20 代の世帯主・代表者で、「3 人」(27.2%)、「4 人」(23.5%)などと回答した、別居の家族人数の多い世帯が多くなっている。(図表 1-5-4)

図表 1-5-4 別居の家族人数(世帯主・代表者の年代別)

